

17日（木）に、三崎小学校2年生が、城ヶ島の白秋碑前の浜で、海遊びをしました。目的は、図工で取り組む海の生き物の衣装づくりの材料として、貝などを拾うことでした。



やや寒いくらいの天候でしたが、子どもたちは元気いっぱい貝を拾い始めました。中には、アコヤガイやホタテ貝の仲間を見つけた児童も。

その後、海岸のゴミ拾いに移りました。一人20個のゴミを拾うのが約束です。



最後に、砂遊びです。できるだけ高い山をつくらうと競争しました。

子どもたちは、本当に楽しそうで、まだまだ遊び足りないようでしたが、帰路につきました。

驚いたのは、現地に、観音崎自然博物館の山田先生親子が、たまたま来ていたことです。子どもたちの質問になんでも答えてくれるので、子どもたちに大人気でした。その後、海に潜って、ヒトデやウニ、スカシカシパンなどを獲ってきてくれました。市内に、海の専門家がいらっしやるのは、ありがたいことですね。



23日（水）、南下浦小学校の3年生が、学校下の高抜海岸で、磯観察を行いました。講師は、観音崎自然博物館の山田先生でした。

お天気も良く、子どもたちは元気いっぱいに、磯に向かっていきます。

本研究所で配付したアクアスコープを利用して、次々に海の生き物をゲットしました。イダテンカジカ（右の写真）やオヤビッチャ、ヒライソガニ、イソスジエビなどたくさんの種類の生き物を獲ることができ、子どもたちの表情には満足感があふれていました。

最後に、山田先生から、捕獲した生き物について説明を受けて学校に戻りました。



当日三浦海岸には、20羽程度のウミウの群れが見られ（左の写真）、時々潜っては漁をしていました。この後、漁師さんの船が移動してきて、群れは一斉に飛び立ちました。この日は、普段三浦海岸では見かけないミサゴも一羽飛んでいて、突然急降下して魚を獲るシーンを見ることもできました。

（文責 事務局長 渋谷）